

One Shot Cinema 3月/4月のラインナップ

“On Every Tuesday at 7:00 p.m.!!”

2018年よりスタートしました1日1回限定上映、文字通り「1度きり」の上映企画“One Shot Cinema”、3、4月のラインナップが早速決定いたしました！
毎週火曜日、夜19時～の1日1回限定の上映となります！

【料金】

一律1,400円、シニア・特別会員1,100円

※夜19時台の上映を予定しておりますが、
具体的なスケジュールは週により変動いたします。

3/6(火)



『草原に黄色い花を見つける』

(2015/ベトナム/103分/監督：ピクター・ブー)

1980年代後半のベトナム中南を舞台に、貧しい村に生きる兄弟と幼馴染みの少女との淡い初恋を瑞々しく描いた青春映画。
ベトナムで社会現象となった本作は、第89回アカデミー賞にベトナム映画代表としてノミネートされ、また海外の映画祭で数々の賞を受賞した。

3/13(火)



『空と風と星の詩人 尹東柱(ユン・ドンジュ)の生涯』

(2016/韓国/110分/監督：イ・ジュニク)

韓国の国民的詩人、尹東柱(ユン・ドンジュ)の生涯を、
『王の男』『ソウォン/願い』のイ・ジュニク監督が
美しい詩とモノクロ映像で映画化。

3/20(火)



『あさがくるまえに』

(2016/フランス・ベルギー/104分/
監督：カテル・キレベレ/PG12)

夜明け前、シモンはまだ恋人が眠るベッドを抜け出し、友人たちとサーフィンへ出かけた帰り道、彼は交通事故に遭い、脳死と判定される。一方、音楽家のクレールは心臓を病んでおり、心臓移植を受けるしか生き延びる方法がない。そんな時、担当医からドナーが見つかった、と電話が入る。いま世界中で高い評価を集めている、フランスの気鋭の監督カテル・キレヴェレの作品が、待望の日本上陸！！

3/27(火)



『静かなふたり』

(2017/フランス/70分/監督：エリーズ・ジラルル)

最近パリへ引っ越してきたばかりのマヴィはある日、小さな古書店の店主ジョルジュに会う。祖父と孫ほどの年齢差があるが、書物について言葉を交わし互いの孤独さを共有するうち、ふたりは徐々に惹かれあう。だがジョルジュには古書店店主とは別の、間に包まれた過去があった。ひとりの女性が自分の人生を選択するまでのちょっと奇妙な成長譚。
主演のロリータ・シャマはイザベル・ユペールの娘。

4/3(火)



『目撃者 闇の中の瞳』

(2017/台湾/117分/監督：チェン・ウェイハオ/PG12)

ジャーナリストの卵が山道で目撃した高級車2台の衝突死亡事故。9年後、やり手の新聞記者となった男は、今乗っている愛車がその時当て逃げされた事故車だったと知る。それは悪夢のはじまりだった。台湾で注目を集める33歳の新鋭監督、チェン・ウェイハオによる、時空と視点が交錯する巧みな構成で描いた犯罪スリラー。

4/10(火)



『日曜日の散歩者 わすれられた台湾詩人たち』

(2015/台湾/162分/監督：ホアン・ヤーリー)

1930年代、日本による植民地支配が40年近く経過した、日本統治期の台湾。日本語で新しい台湾文学を生み出そうとした詩人団体、「風車詩社」。しかし彼らは戦後の二二八事件、白色テロなど、植民地支配、言論弾圧という大きな時代の渦の中に埋もれていった。彼らの情熱が現代を生きる我々にいま訴えかけてくるものとは一。詩の朗読、貴重な資料映像、前衛的な手法で描れる再現パートの、3つの要素で構成される本作は、多くの国際映画祭を席卷した。

4/17(火)



『あしたはどっちだ、寺山修司』

(2017/日本/100分/監督：相原英雄)

異端のマルチクリエイター、寺山修司に迫るドキュメンタリー。彼は「演劇による革命」を標榜し、過激版フラッシュモブともいふべき市街劇「ノック」を街中でゲリラ的に敢行した。アナーキストを自負する寺山の原動力とは何か、調べていくと彼の創作や思想に影響を与えた驚くべき過去が浮かび上がり、最後に計画していた幻の市街劇の存在が明らかに一。

4/24(火)



『オラファー・エリアソン 視覚と知覚』

(2009/デンマーク/77分)

監督：ヘンリック・ルンデ、ヤコブ・イェルゲンセン)

世界的に著名な現代アート作家、オラファー・エリアソン。ニューヨーク市イースト川での巨大な滝のインスタレーション「ザ・ニューヨークシティー・ウォーターフォールズ」の製作過程、金沢21世紀美術館などでの過去の出展作品、ドイツの製作スタジオの風景などを映す。スクリーン越しに観客に行う視覚的実験や、日本にほぼ文献がない芸術論も展開される。